

2019年(平成31年)1～3月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業(個人経営の事業所)の業況判断D I

- ① 今期の業況判断
今期(2019年1～3月期)の業況判断D Iは(-)61.3で、前期(2018年10～12月期)
 (-58.0)に比べ、3.3ポイントの悪化。
- ② 来期の見通し
来期(2019年4～6月期)の業況見通しD Iは(-)59.4で、今期の業況判断(-61.3)
 に比べ、1.9ポイントの改善の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

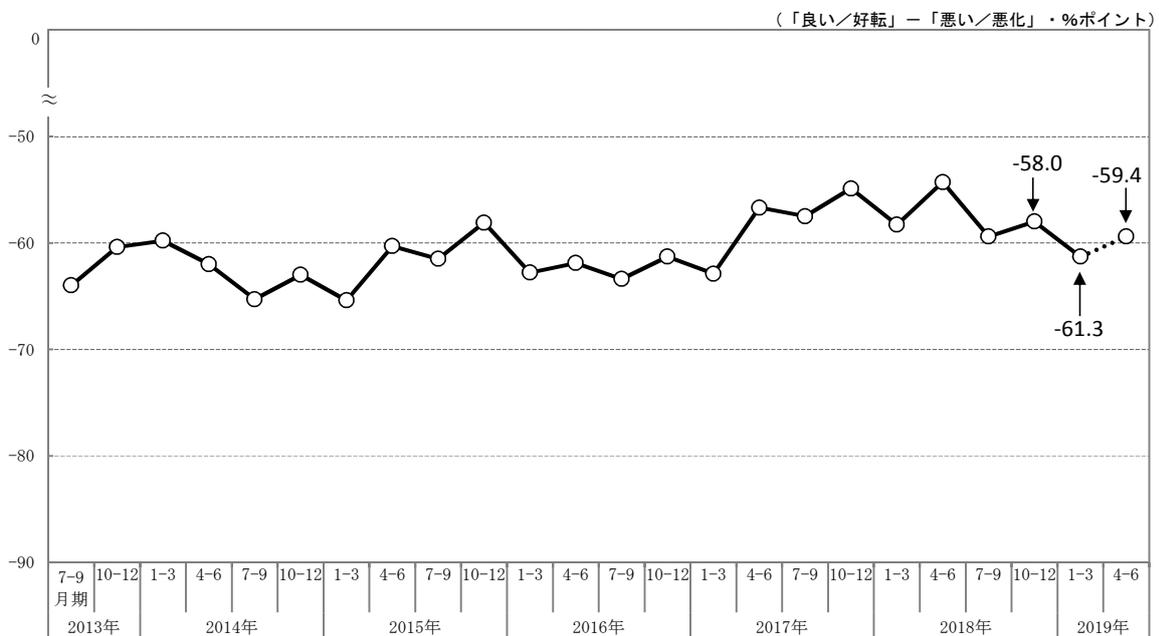


表1 業況判断の割合 —調査産業計—

	2018年				2019年		
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期 見通し	
今期の業況, 来期の業況 (%)							
良い/好転	4.3	4.3	3.6	4.1	3.5	2.9	
普通/不変	33.1	37.1	33.4	33.8	31.6	34.8	
悪い/悪化	62.6	58.6	63.0	62.1	64.8	62.3	
D I	-58.3	-54.3	-59.4	-58.0	-61.3	-59.4	
参考	日銀短観(大企業全産業計)	23	22	21	21	17	14
	中小企業景況調査(全産業計)	-24.8	-20.3	-22.1	-19.5	-25.0	-10.9

(注) 「中小企業景況調査」：(独)中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、2019年4月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、			
□「製造業」は	207万円で、	前年同期に比べ、	3.0%の増加
□「卸売業、小売業」は	334万6000円で、	前年同期に比べ、	9.2%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	208万7000円で、	前年同期に比べ、	4.6%の減少
□「サービス業」は	118万7000円で、	前年同期に比べ、	5.4%の増加
② 今期の1事業所当たりの営業利益は、			
□「製造業」は	57万9000円で、	前年同期に比べ、	14.9%の増加
□「卸売業、小売業」は	30万9000円で、	前年同期に比べ、	25.0%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	40万8000円で、	前年同期に比べ、	5.2%の増加
□「サービス業」は	38万円で、	前年同期に比べ、	0.8%の減少

※前年同期:2018年1~3月期

表2 産業別売上高及び営業利益

		(1事業所当たり)								
		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業		
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
実数 (千円)	2017年	1~3月期	2,328	605	3,320	287	2,014	372	1,131	377
		4~6月期	2,478	641	3,621	385	2,109	409	1,242	496
		7~9月期	2,431	569	3,648	446	2,245	443	1,189	450
		10~12月期	2,597	770	4,009	397	2,267	415	1,286	470
	2018年	1~3月期	2,009	504	3,686	412	2,187	388	1,126	383
		4~6月期	2,388	687	3,595	415	2,165	421	1,223	464
		7~9月期	2,191	568	3,339	350	2,149	386	1,238	463
		10~12月期	2,537	740	3,779	465	2,231	413	1,335	465
	2019年	1~3月期	2,070	579	3,346	309	2,087	408	1,187	380
	前年同期比 (%)	2017年	1~3月期	1.5	-11.7	-6.9	-18.7	-10.6	-11.0	-0.3
4~6月期			14.5	4.6	-1.0	16.7	1.2	11.7	7.4	17.8
7~9月期			16.2	-1.9	0.3	14.9	6.5	6.0	4.4	5.4
10~12月期			1.5	11.9	4.9	-2.0	6.9	7.2	7.2	10.1
2018年		1~3月期	-13.7	-16.7	11.0	43.6	8.6	4.3	-0.4	1.6
		4~6月期	-3.6	7.2	-0.7	7.8	2.7	2.9	-1.5	-6.5
		7~9月期	-9.9	-0.2	-8.5	-21.5	-4.3	-12.9	4.1	2.9
		10~12月期	-2.3	-3.9	-5.7	17.1	-1.6	-0.5	3.8	-1.1
2019年		1~3月期	3.0	14.9	-9.2	-25.0	-4.6	5.2	5.4	-0.8

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、			
□「製造業」は	3万6000円で、	前年同期（4万円）に比べ、	減少
□「卸売業、小売業」は	5万8000円で、	前年同期（5万9000円）に比べ、	減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	6万円で、	前年同期（4万2000円）に比べ、	増加
□「サービス業」は	5万1000円で、	前年同期（2万8000円）に比べ、	増加
② 今期の1事業所当たりの設備投資率（売上高に対する設備投資額の割合）は、			
□「製造業」は	1.7%で、	前年同期（2.0%）に比べ、	0.3ポイントの低下
□「卸売業、小売業」は	1.7%で、	前年同期（1.6%）に比べ、	0.1ポイントの上昇
□「宿泊業、飲食サービス業」は	2.9%で、	前年同期（1.9%）に比べ、	1.0ポイントの上昇
□「サービス業」は	4.3%で、	前年同期（2.5%）に比べ、	1.8ポイントの上昇

※前年同期:2018年1~3月期

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

		(1事業所当たり)							
		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)
2017年	1~3月期	121	5.2	46	1.4	46	2.3	43	3.8
	4~6月期	79	3.2	54	1.5	64	3.0	66	5.3
	7~9月期	110	4.5	63	1.7	72	3.2	33	2.8
	10~12月期	98	3.8	57	1.4	140	6.2	42	3.3
2018年	1~3月期	40	2.0	59	1.6	42	1.9	28	2.5
	4~6月期	236	9.9	43	1.2	56	2.6	59	4.8
	7~9月期	79	3.6	49	1.5	114	5.3	68	5.5
	10~12月期	142	5.6	55	1.5	108	4.8	65	4.9
2019年	1~3月期	36	1.7	58	1.7	60	2.9	51	4.3

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（2019年1～3月期）の業況判断DIは（-）61.3で、前期（2018年10～12月期）（-58.0）に比べ、3.3ポイント悪化した。

イ 前期と比較した業況判断DIは（-）52.8で、前期（-41.5）に比べ、11.3ポイント悪化した。

ウ 前年同期（2018年1～3月期）と比較した業況判断DIは（-）52.0で、前期（-51.0）に比べ、1.0ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（2019年4～6月期）の業況見通しDIは（-）59.4で、今期の業況判断（-61.3）に比べ、1.9ポイントの改善の見通しとなっている。

図2 業況判断DIの推移 —調査産業計—

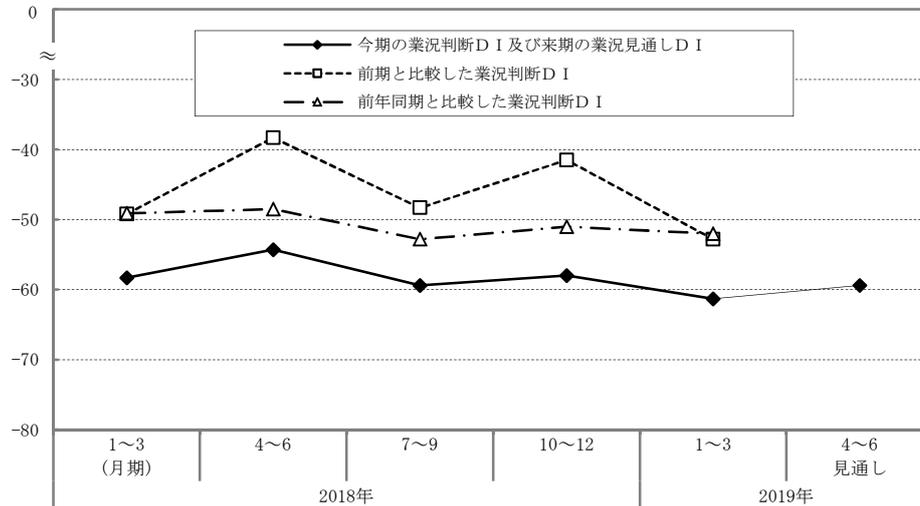
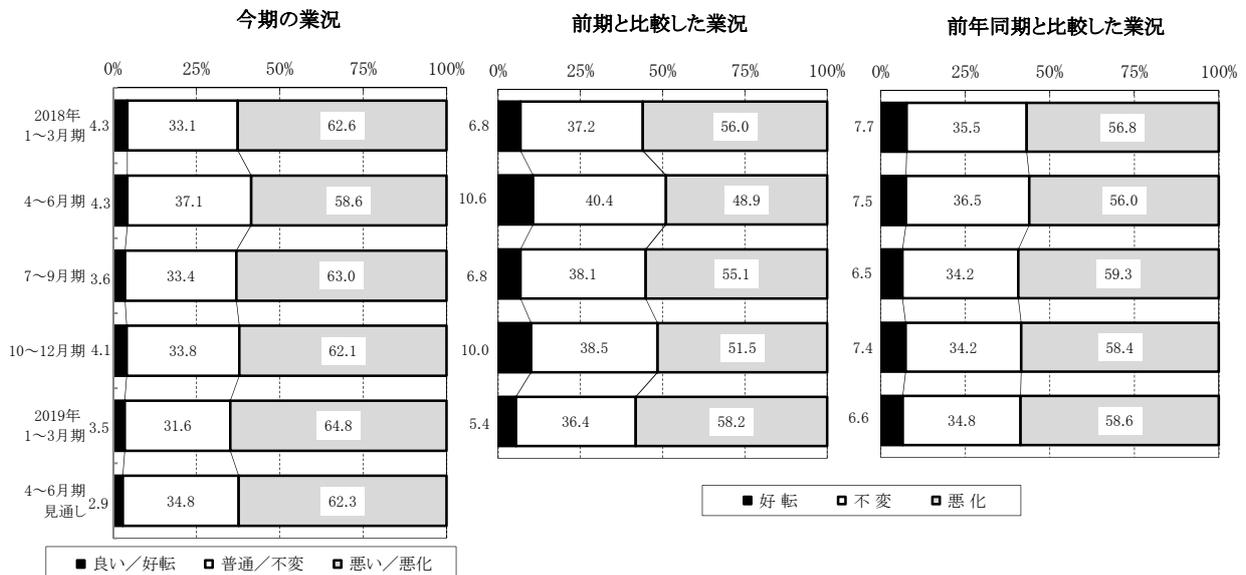


図3 業況判断の割合 —調査産業計—



(2) 売上の状況

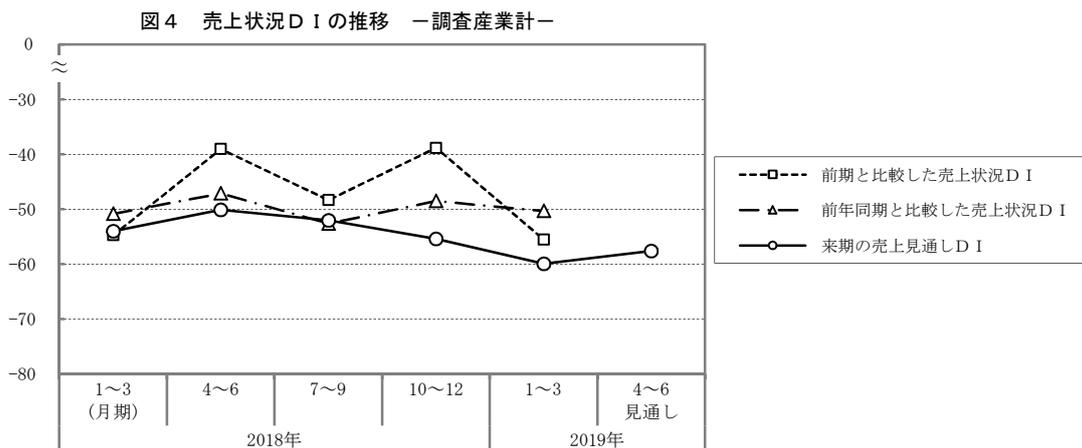
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)55.5 で、前期 (-38.8) に比べ、16.7 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)50.3 で、前期 (-48.5) に比べ、1.8 ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)57.6 で、前期における今期の売上見通し (-59.9) に比べ、2.3 ポイントの改善の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

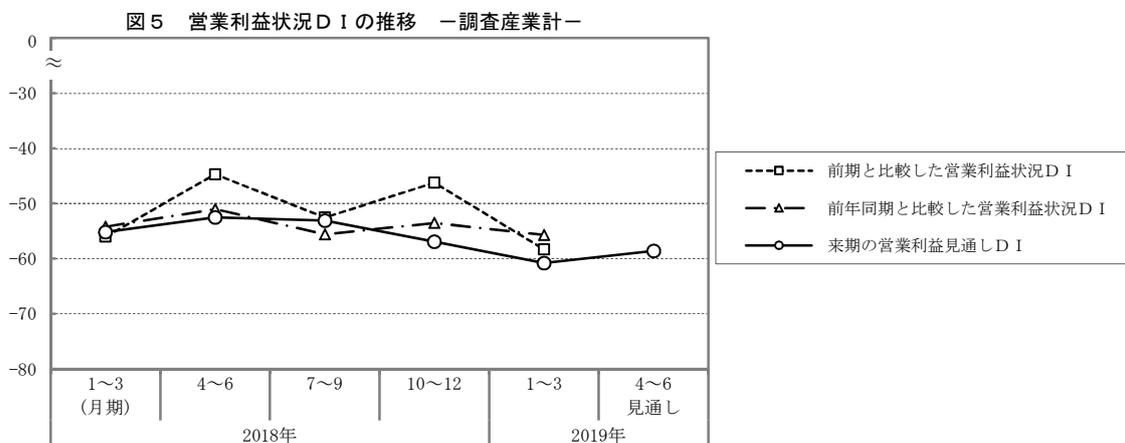
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)58.3 で、前期 (-46.2) に比べ、12.1 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)55.7 で、前期 (-53.5) に比べ、2.2 ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

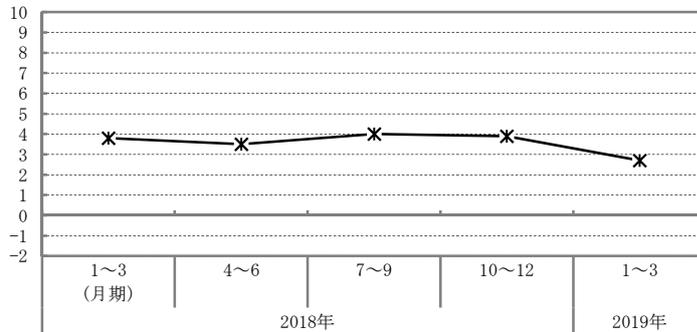
来期の営業利益見通しD Iは (-)58.6 で、前期における今期の営業利益見通し (-60.8) に比べ、2.2 ポイントの改善の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)2.7 で、前期 (+3.9) に比べ、1.2 ポイント「過剰」が縮小した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

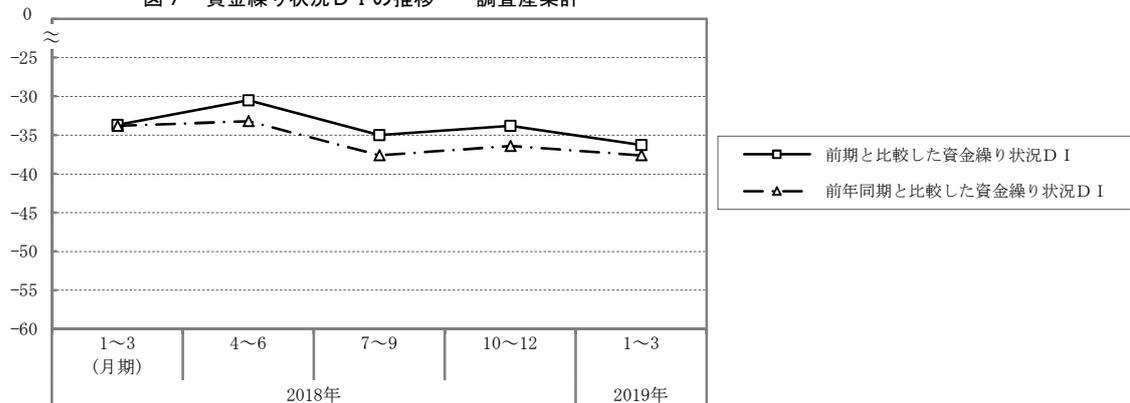


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)36.3 で、前期 (-33.8) に比べ、2.5 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)37.6 で、前期 (-36.4) に比べ、1.2 ポイント悪化した。

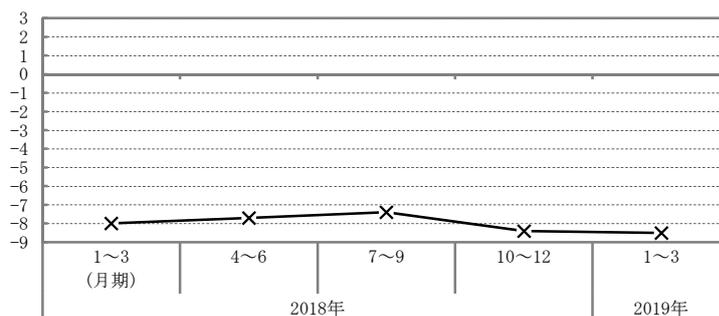
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)8.5 で、前期 (-8.4) に比べ、0.1 ポイント「不足」が拡大した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（2019年1～3月期）の業況判断DIは（-）59.1で、前期（2018年10～12月期）（-48.8）に比べ、10.3ポイント悪化した。

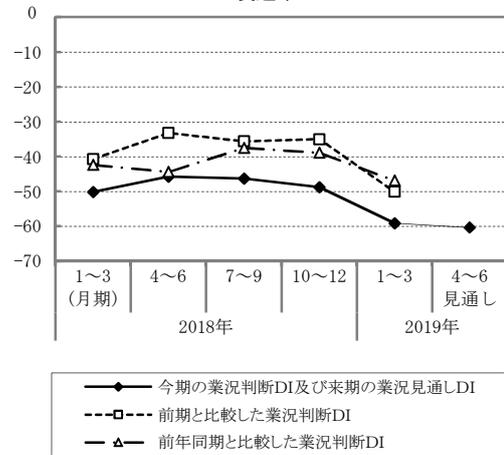
イ 前期と比較した業況判断DIは（-）50.1で、前期（-35.0）に比べ、15.1ポイント悪化した。

ウ 前年同期（2018年1～3月期）と比較した業況判断DIは（-）46.9で、前期（-38.9）に比べ、8.0ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（2019年4～6月期）の業況見通しDIは（-）60.4で、今期の業況判断（-59.1）から、1.3ポイントの悪化の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

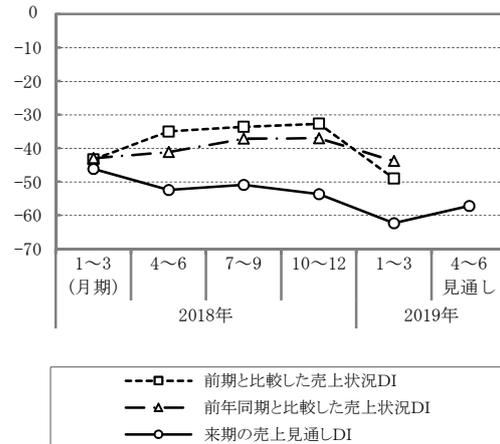
ア 前期と比較した売上状況DIは（-）49.0で、前期（-32.7）に比べ、16.3ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは（-）43.8で、前期（-37.0）に比べ、6.8ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは（-）57.2で、前期における今期の売上見通し（-62.3）から、5.1ポイントの改善の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

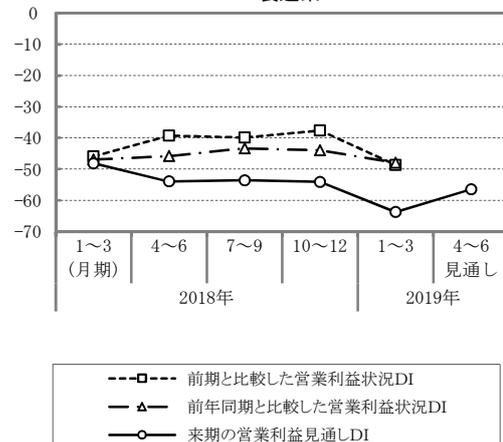
ア 前期と比較した営業利益状況DIは（-）48.6で、前期（-37.6）に比べ、11.0ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは（-）47.9で、前期（-43.9）に比べ、4.0ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは（-）56.4で、前期における今期の営業利益見通し（-63.7）に比べ、7.3ポイントの改善の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)1.1 で、前期の「不足」(-0.5)から「過剰」に転じた。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)33.1 で、前期 (-30.6) に比べ、2.5 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)35.1 で、前期 (-33.6) に比べ、1.5 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)8.5 で、前期 (-7.8) に比べ、0.7 ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

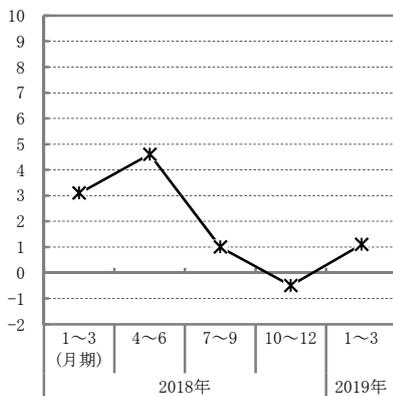


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

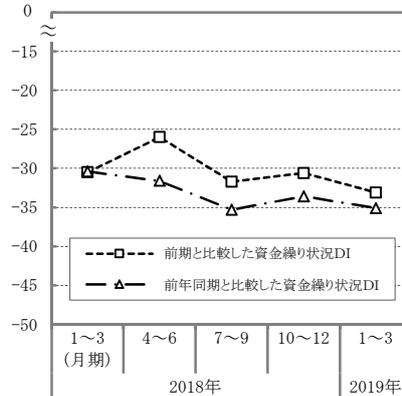
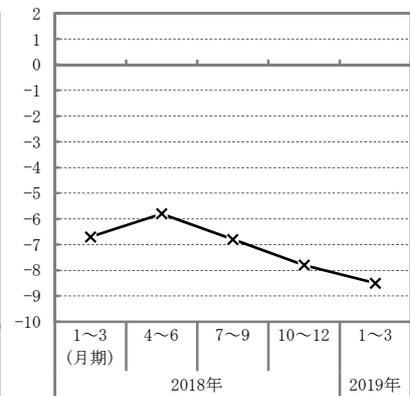


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業, 小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期 (2019年1~3月期) の業況判断DIは (-)67.2 で、前期 (2018年10~12月期) (-63.4) に比べ、3.8 ポイント悪化した。

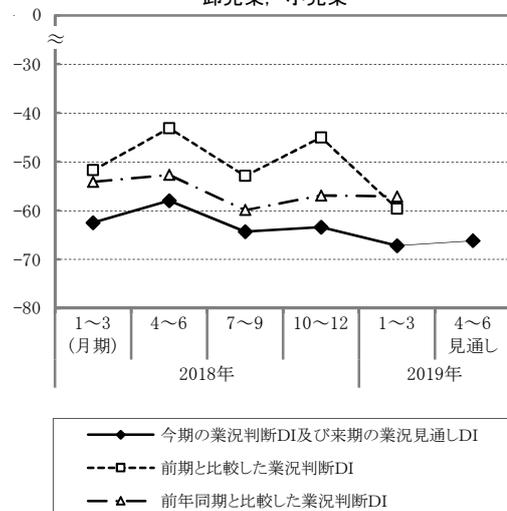
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)59.6 で、前期 (-45.0) に比べ、14.6 ポイント悪化した。

ウ 前年同期 (2018年1~3月期) と比較した業況判断DIは (-)57.1 で、前期 (-56.9) に比べ、0.2 ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期 (2019年4~6月期) の業況見通しDIは (-)66.2 で、今期の業況判断 (-67.2) に比べ、1.0 ポイントの改善の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業, 小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

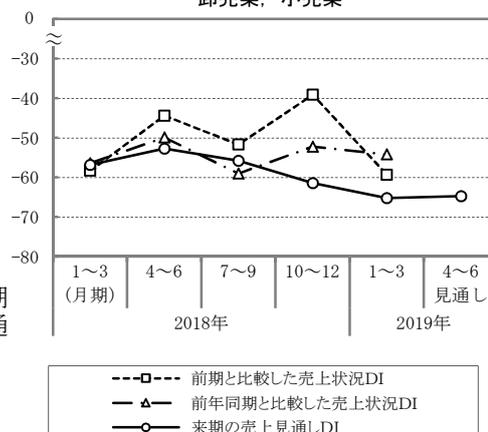
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)59.3で、前期(-39.1)に比べ、20.2ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)54.2で、前期(-52.2)に比べ、2.0ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)64.7で、前期における今期の売上見通し(-65.2)に比べ、0.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

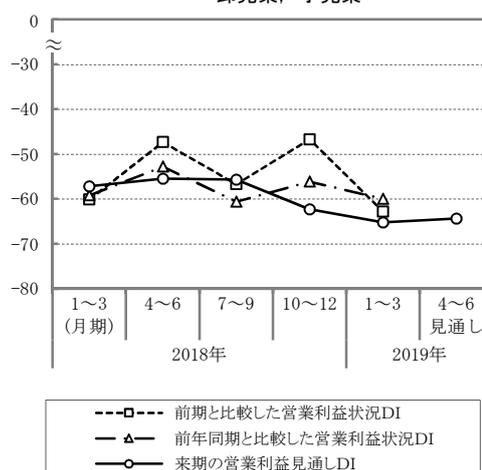
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)62.8で、前期(-46.7)に比べ、16.1ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)60.0で、前期(-56.1)に比べ、3.9ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)64.4で、前期における今期の営業利益見通し(-65.2)に比べ、0.8ポイントの改善の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)5.1で、前期(+)7.1)に比べ、2.0ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)39.3で、前期(-35.9)に比べ、3.4ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)40.6で、前期(-38.0)に比べ、2.6ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)7.6で、前期(-8.2)に比べ、0.6ポイント「不足」が縮小した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業、小売業-

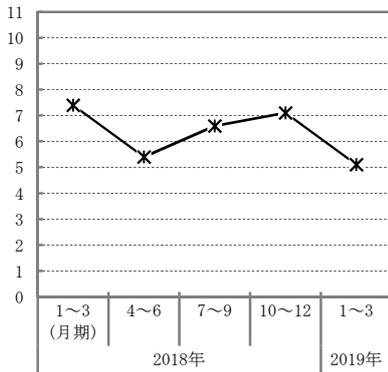


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業、小売業-

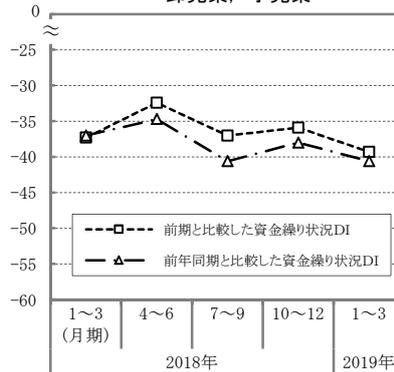
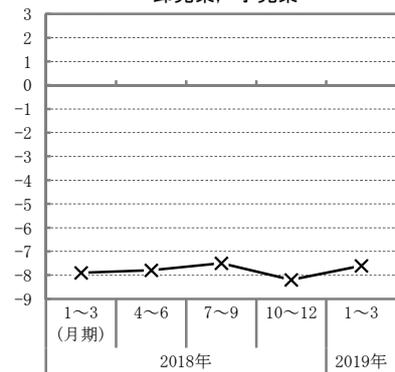


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業、小売業-



4 宿泊業、飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（2019年1～3月期）の業況判断DIは(-)53.5で、前期（2018年10～12月期）(-54.6)に比べ、1.1ポイント改善した。

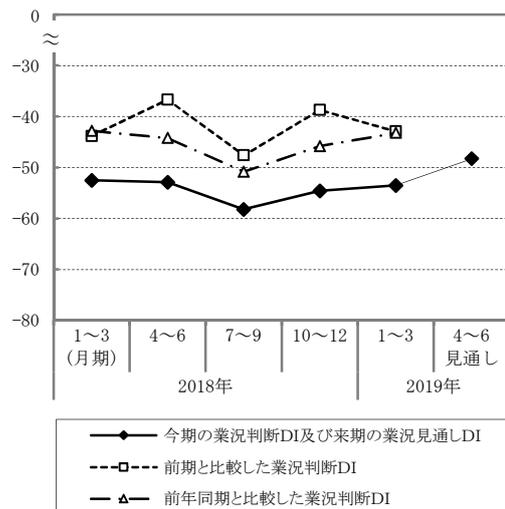
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)42.9で、前期(-38.7)に比べ、4.2ポイント悪化した。

ウ 前年同期（2018年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)43.2で、前期(-45.8)に比べ、2.6ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（2019年4～6月期）の業況見通しDIは(-)48.3で、今期の業況判断(-53.5)に比べ、5.2ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

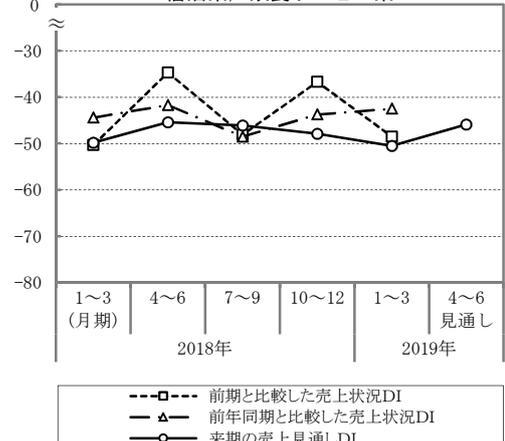
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)48.5で、前期(-36.7)に比べ、11.8ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)42.5で、前期(-43.7)に比べ、1.2ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)45.9で、前期における今期の売上見通し(-50.5)に比べ、4.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

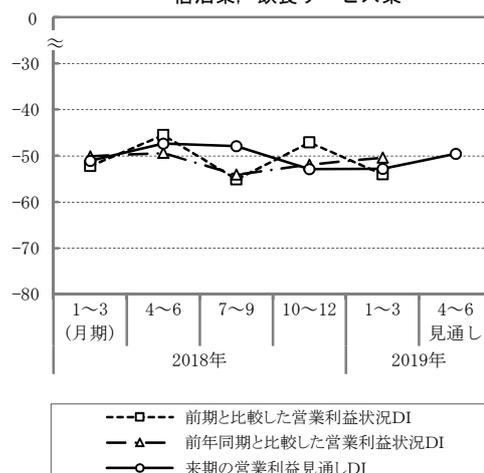
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)54.0で、前期(-47.1)に比べ、6.9ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)50.4で、前期(-51.9)に比べ、1.5ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)49.6で、前期における今期の営業利益見通し(-52.8)に比べ、3.2ポイントの改善の見通しとなっている。

図23 営業利益状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)0.4で、前期(+1.9)に比べ、1.5ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)33.3で、前期(-34.8)に比べ、1.5ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)35.0で、前期(-37.4)に比べ、2.4ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)13.2で、前期(-12.3)に比べ、0.9ポイント「不足」が拡大した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

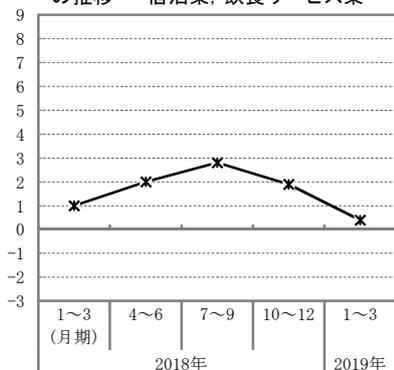


図25 資金繰り状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

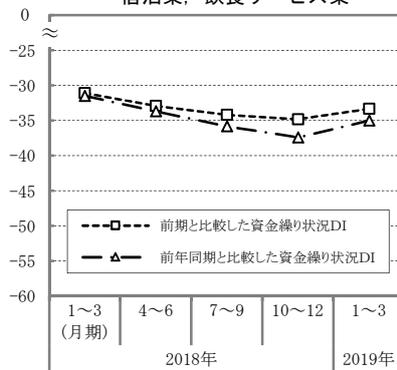


図26 雇用状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（2019年1～3月期）の業況判断DIは(-)59.4で、前期（2018年10～12月期）(-56.8)に比べ、2.6ポイント悪化した。

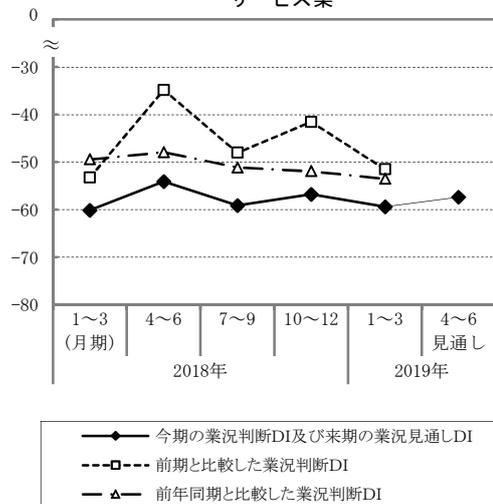
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)51.5で、前期(-41.5)に比べ、10.0ポイント悪化した。

ウ 前年同期（2018年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)53.5で、前期(-51.9)に比べ、1.6ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（2019年4～6月期）の業況見通しDIは(-)57.4で、今期の業況判断(-59.4)に比べ、2.0ポイントの改善の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

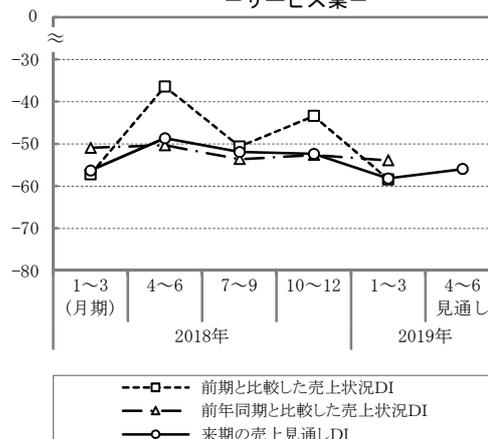
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)58.4で、前期(-43.4)に比べ、15.0ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)53.9で、前期(-52.6)に比べ、1.3ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)56.0で、前期における今期の売上見通し(-58.2)に比べ、2.2ポイントの改善の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

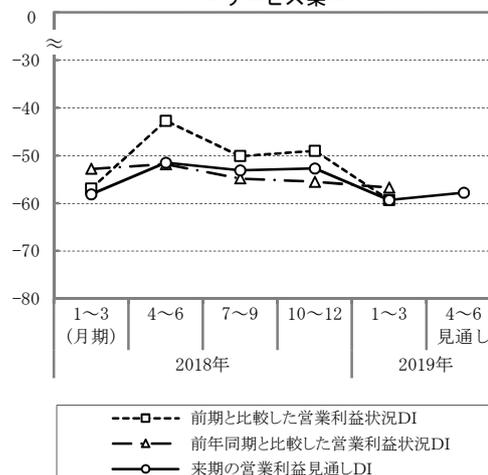
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)59.3で、前期(-49.0)に比べ、10.3ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)56.7で、前期(-55.5)に比べ、1.2ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)57.8で、前期における今期の営業利益見通し(-59.3)に比べ、1.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)1.3 で、前期 (+2.8) に比べ、1.5ポイント「過剰」が縮小した。

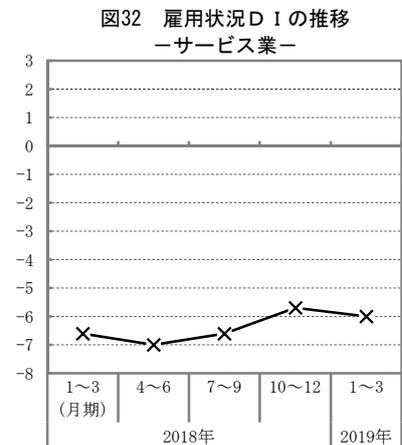
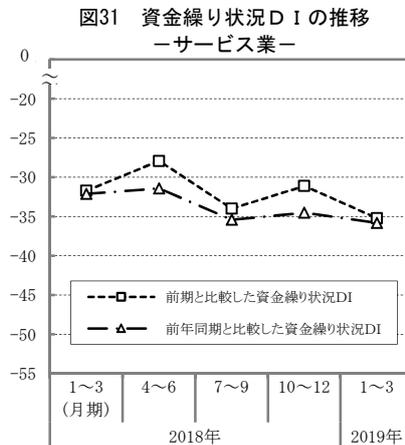
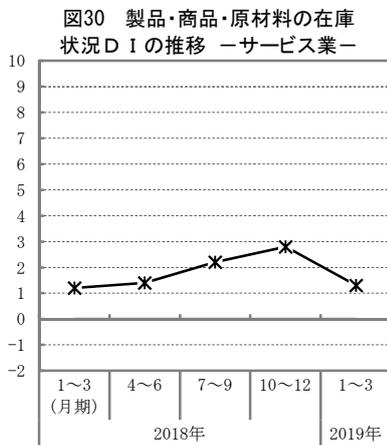
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)35.2 で、前期 (-31.1) に比べ、4.1ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)35.8 で、前期 (-34.5) に比べ、1.3ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)6.0 で、前期 (-5.7) に比べ、0.3ポイント「不足」が拡大した。



Ⅲ 営業収支

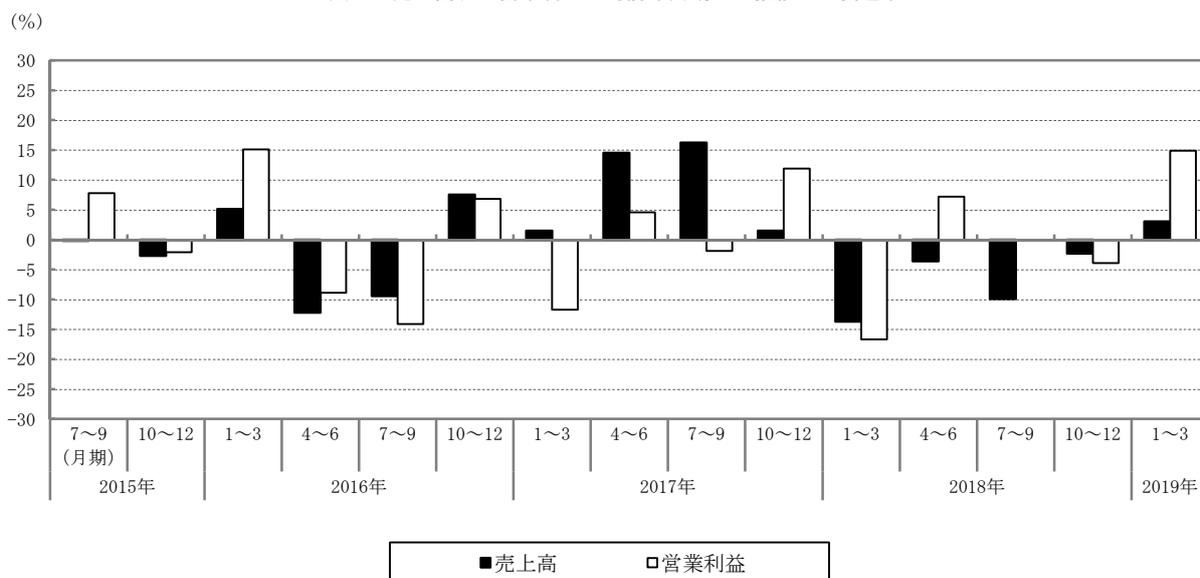
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は207万円で、これに対する費用は売上原価が69万5000円、営業費が79万5000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は57万9000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 3.0% で、5期ぶりに増加した。また、営業利益は(+) 14.9% で、3期ぶりに増加した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 — 製造業 —

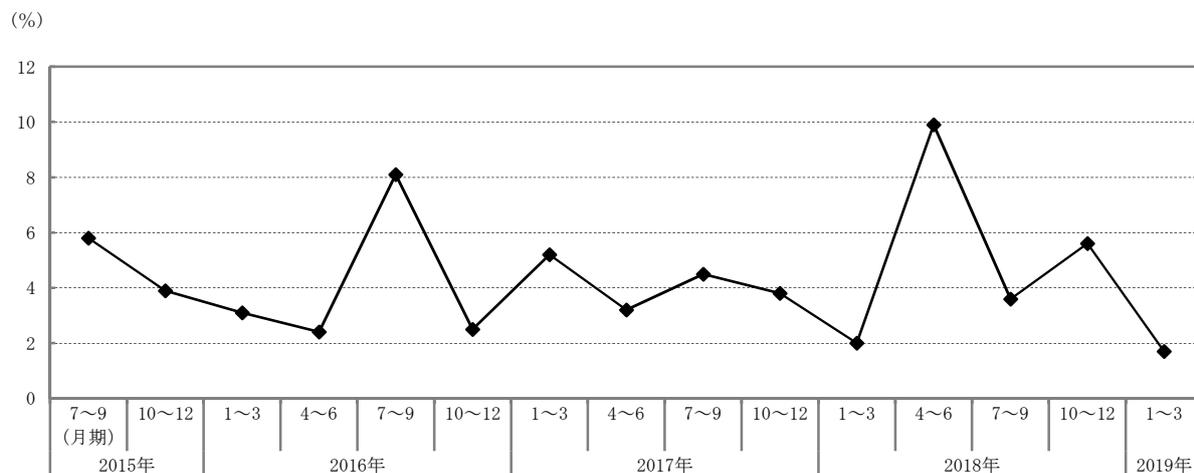


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は3万6000円で、前年同期(4万円)を下回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は 1.7% で、前年同期(2.0%)を 0.3 ポイント下回った。

図34 設備投資率の推移 — 製造業 —



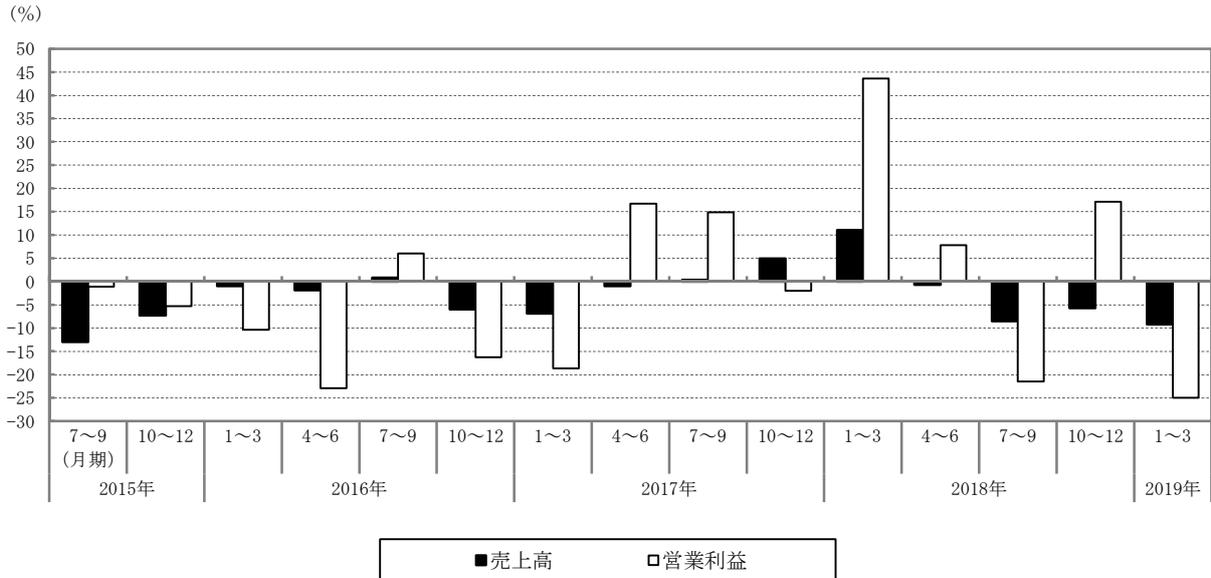
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は334万6000円で、これに対する費用は売上原価が225万7000円、営業費が77万9000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は30万9000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)9.2%で、4期連続で減少した。また、営業利益は(-)25.0%で、2期ぶりに減少した。

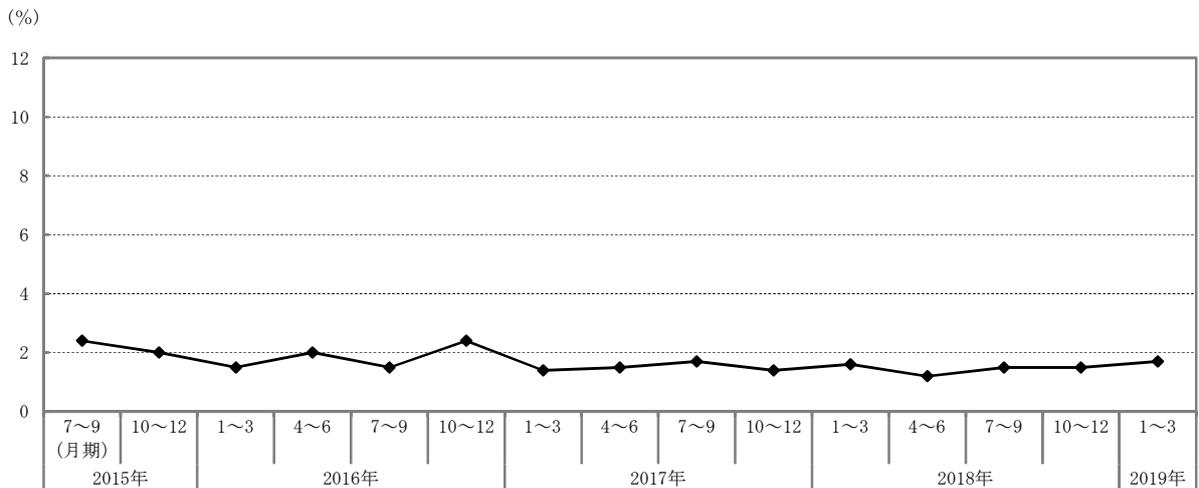
図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 —卸売業、小売業—



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は5万8000円で、前年同期(5万9000円)を下回った。また、設備投資率は1.7%で、前年同期(1.6%)を0.1ポイント上回った。

図36 設備投資率の推移 —卸売業、小売業—



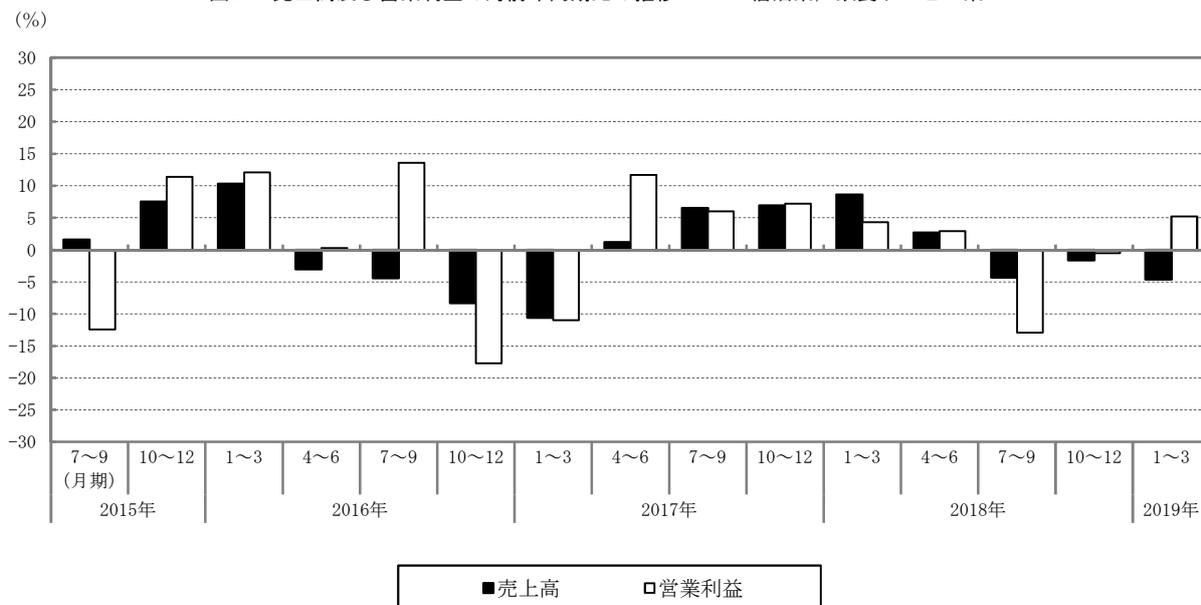
3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は208万7000円で、これに対する費用は売上原価が86万8000円、営業費が81万2000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は40万8000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)4.6%で、3期連続で減少した。また、営業利益は(+)5.2%で、3期ぶりに増加した。

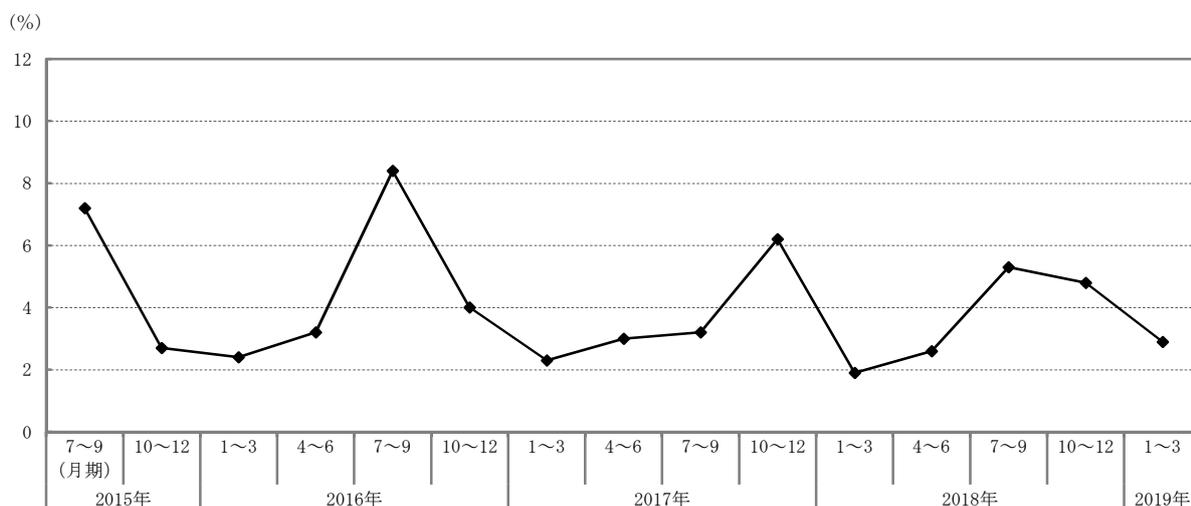
図37 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は6万円 で、前年同期(4万2000円)を上回った。また、設備投資率は2.9%で、前年同期(1.9%)を1.0ポイント上回った。

図38 設備投資率の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



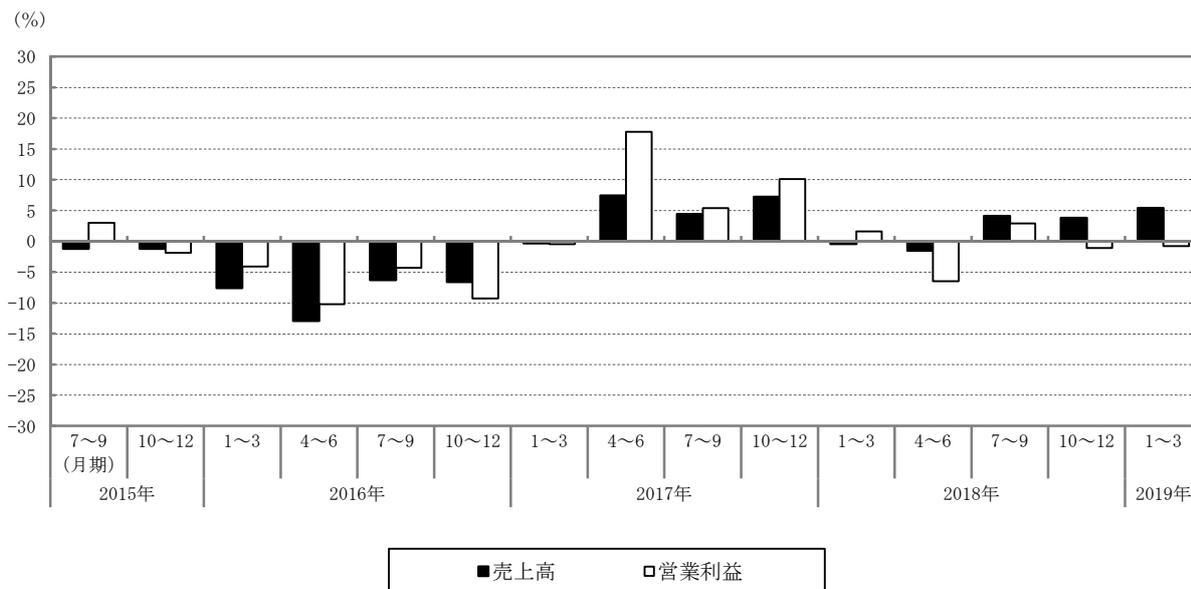
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は118万7000円で、これに対する費用は売上原価が18万9000円、営業費が61万8000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は38万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 5.4% で、3期連続で増加した。また、営業利益は(-) 0.8% で、2期連続で減少した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 -サービス業-



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は5万1000円で、前年同期(2万8000円)を上回った。また、設備投資率は 4.3% で、前年同期(2.5%)を1.8ポイント上回った。

図40 設備投資率の推移 -サービス業-

